

以護郷歩兵隊編制

明治卅年自四日參謀本部第一部長

0390

護郷歩兵隊編制

第一章 綱領

第一 護郷歩兵隊ハ臺灣島守備ニ任ス

第二 護郷歩兵隊ハ臺灣總督ノ統率ニ屬ス

第二章 編制

第三 護郷歩兵隊ノ編制ハ大隊六個トシテ守備混成旅團

ニ編入ス

第四 護郷歩兵大隊ノ編制ハ附表第一號ニ依ル

第五 各歩兵大隊ハ第一ヨリ第六ニ至ル番號ヲ付ス

第三章 要員

第六 護郷歩兵隊ニ充ツル將校同相當官、准士官、下士官及諸職工長ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 現役豫備役及後備役者ニシテ志願ノ者
- 二 志願者ヲ以テ尚ホ不足ナルトキハ現役ノ者シムル之ヲ補フ

總テ志願ノ者ハ少クモ滿ニケ年間連續シテ服務スルモノトス其ノ他ノ者ハ通帯約一ケ年ニシテ内地勤務ノ者トシテ代~~置~~志願ニ因リ其服務期限ヲ延スルヲ得

三 歩兵科下士官ノ内約半數ハ護郷歩兵卒ニシテ服役ニケ年ヲ經過シタル者ヲ以テ充ツルヲ得

第七 護郷歩兵隊兵卒ハ護郷兵條例ニ依リ徵集シタル
志願者ヲ以テ之ニ充ツ

第八 將校ノ馬卒ハ凡テ傭人ヲ用ヒ其數馬匹一頭ニ付一
名トス

第四章 補充

第九 將校同相當官准士官下士（護郷兵出身ノ下士ヲ除ク）
及諸職上長ニ缺員アルトキハ臺灣總督陸軍大臣ニ請
求シテ之ヲ補充ス

第十 護郷兵出身ノ下士及其兵卒ノ補充方法ハ臺灣
總督之ヲ規定ス

0393

第十一 士官兼用馬匹ノ補充法ニ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第一 本編制ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第二 護郷歩兵大隊ノ新設義年順序ハ附表第二號

ニ依ル但シ實施上已ニ得ル場合ニ於テ臺灣總督陸軍大臣ノ許可ヲ得
テ多少之ヲ延期スルヲ得

第三 護郷歩兵大隊ノ配置ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四 護郷歩兵大隊ノ新設部隊數及配置ハ其實

施ノ都度臺灣總督ヨリ陸軍大臣及參謀總長

報告ス

附表第二号

備考	三十一年		年次	部	隊
	四月	九月			
(一) 朱書八隊新設、黒書八隊改訂 (二) 八大隊本部、八中隊長ヲ移入	①②	③④	各	八	隊
	①② 四分ノ二	③④ 四分ノ一			

護郷歩兵各大隊新設着手順序表

護郷歩兵隊編制ノ理由

- 一、台湾ニ於ル守備隊ノ風土ノ異ナルト言語ノ通セサルトニ因リ地方鎮壓ノ為ノ勞多クミテ而シテ其切少シ是レ避クヘカラサル自然ノ状勢ナリトス若夫去人ヲ以テ軍隊ヲ編成シ守備隊ヲ補助スルヲ得ルトキハ前記ノ不利ヲ減少シ而シテ其切ヲ收ムルコト大ナルヲ信ス然ルニ今ヤ台湾ノ状況土民ノ志願者ヲ採用スルコトキハ此編成ノ實行ヲ期スルノ難キニ非サルニ至レリ是レ今回此編制起リト主要ナル眼目トス
- 二、然レ此興キタルヤ實ニ創始ニ係ル宜ク其ノ始メニ於テ之ヲ慎ム以テ其ノ成功ヲ究フスルニ注意セサルヘカラス故ニ

0397

始ヨリ數多ノ部隊ヲ編成スルヲ望ムヘラス又其ノ志願者ノ
負數ニモ顧慮セサルヘカラス 隊數ヲ六大隊トナセシハ右ノ主者
ニ適合スル者ト判定セシニ由ル

三、護郷ノ名稱ヲ冠セシハ此兵ハ特ニ其疆内ニ在リ其ノ各地
備任者若シ内地ニ在ルニ必任義務ヲ有スル者ヲ以テ編成シタル
軍隊ト全ク區別セシカ為ナリ

四、幹部ヲ志願者ヨリ採用スルノ法方ヲ主トセシハ異風土ノ新領地
ニ於ル勤務ハ頗ル困難ナルカ故ニ其ノ望テ職務ニ當ル者ヲ以テ
之ニ充ツルニ汲ワレハ充分ナル好成绩ヲ期スルヲ能ハサルニ由ル
土民ヲ以テ下士ニ充ツルハ之ヲ將大ニ勵セシカ為ナリ且

ノ半数ヲ越ヘシメリルハ未タ完ク此任ヲ土民ニ托レ得ルノ確認ナキニ由ル

五、新設着手順序ヲ斯ク短期日ニ定メレハ明治三十二年ノ十月以後台湾守備隊ノ内地ヨリ派遣スル者ヲ大ニ減セシトスルニ由ル是レ内地ニ於ル諸軍隊ノ整理上ノ必要ヨリ采リニナリ

六、土民兵ノ補充及護御隊駐屯地ノ撥定ヲ台湾総督ニ一任シタルハ豫メ之ヲ規定スルヲ能ハリルニ由ル

0399

附言

本編制ハ少クモ左ノ事項ヲ規定セル者トシテ起接セリ
一、兵役一般ノ規定後令ハ左ノ如シ

護郷兵條例

第一、臺灣土著壯丁ハ志願ニ依リ同島内ニ於テ兵役ニ服スルヲ得ル

第二、年齡滿十七年以上滿三十六年迄ニテ身體強壯ノ者ハ

志願者ヲ得ル

第三、其服役期限ハ滿四年トス但シ年齡四十一年迄ハ志願ニ依リ

之ヲ定スルヲ得ル

第四、除隊免役ノ事

二、兵器材料ノ規定